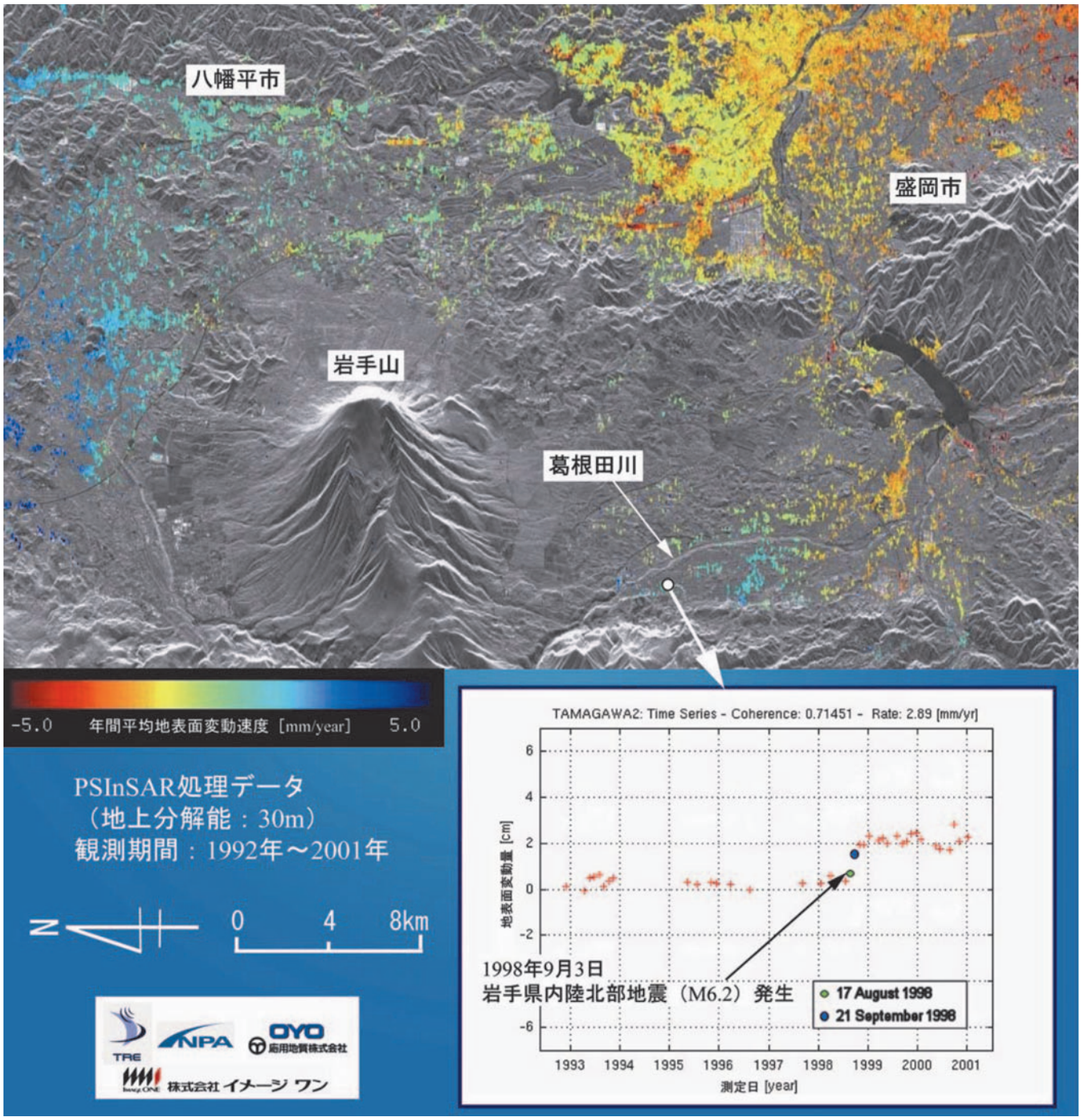
PSInSAR技術による地表面変動の計測（1）－岩手山周辺－

データ提供：株式会社イメージワン　縦断図
データ編集：東京理科大学・国土情報工学研究会

前号からインターフェロメトリ技術（Interferometric SAR：InSAR）による地表面変動の計測事例を紹介しています。下図は1992年～2001年の間に観測されたSARデータ（人工衛星ERS1号、2号観測）を用い、PSInSAR（Permanent Scatterers InSAR）処理を通して計算した「年間平均地表面変動速度（mm／year）」を表しています。対象領域は「岩手山周辺」です。図中、白丸の箇所のグラフを見ると、1998年9月3日に発生した岩手県内陸北部地震（マグニチュード6.2）の地震の影響によって地表面が隆起したことがわかります。西根断層群の活動にともなう地表面変動が観測できることを示唆しています。PSInSAR技術は、現地調査では把握しきれない活断層の位置推定などに寄与するものと期待されています。